

第三回情報 IT 活用分科会(大阪) 議事録

日時: 2009/4/24(金)14:00~17:00

会場: 大阪丸紅ビル 13F E 共用会議室

テーマ: 「Windows Server/SQL Server ホスティング・サービスの利用事例」について

講師: 有限会社コザック 代表取締役社長 河端善博 様
(SQL Server ユーザーグループ PASSJ 理事/Microsoft MVP for SQL Server/INETA Japan 理事)

司会・進行: IT 活用分科会座長
ニッタ株式会社
コーポレートセンター IT グループ
船堂 晃 氏

※当分科会の運営方針により、個人/会社名を特定できる発言、および発表者から公開の許可を得られなかった内容は 議事録より削除されています。あらかじめご了承ください。

【講演へのご質問】

Q: 今後GoogleやMicrosoftなど色々なメーカーからクラウドがどンドンリリースされてくと思うが、システムを構築している立場からすると、Windowsアプリケーションやサービスはもちろん、SolarisやLinuxで動かすサービスもある。そう考えた時、Microsoftのアジュールと契約して、その仮想マシンの中に、Linuxを走らせるようなことをやりたい。そういったことの見通しはあるのか？

A: ない。OSの意味がなくなってしまう。要はPerlやPHPが動くようなサービスが提供できれば良い。

Q: 企業で利用するアプリケーションは、そんなに簡単ではない。全部Javaで書かれているなど。

A: GoogleではすでにJavaプラットフォームのサービスを提供している。ただ今後、単一のプラットフォームでしか動作しないアプリケーションで競争力が出るのかとうことになると、疑問である。WindowsでもLinuxでも動作するといったアプリケーションの開発ということが求められると考える。

Q: クラウドが進んでいくと、我々システム管理系の人間は、どういった仕事をしていったらよいのか。今後はPerlやPHPを勉強して、開発系にシフトすべきなのか。

A: ITの細かいメンテナンスをしていたような業者は、現在大きなプレッシャー下にあると考えられる。それはホスティング事業者も同様。現在アメリカで言われているのは、管理対象サーバ400台に対し1人の管理者というのが採算ラインである。国の施策としても、今後IT担当者がどういった仕事にシフトすべきかといった議論に入っているフェーズではある。

Q: クラウドを導入する際、費用対効果的に何台のサーバから効果がでるのか

A: 1台から出る。今後BCPなどを考えてサーバを構築していくとなると、クラスタリングの勉強が必要となるし、その後テストを行なう。そもそもそこで十分なパフォーマンスが出るのかも分からない。クラスタリングともなるとサーバの2重化、スイッチの2重化、ストレージの2重化、ファイアウォールの2重化が必要になるし、その運用管理を行な

うためActiveDirectoryを導入して監査、そのサーバのネットワーク監視やシステム監視が必要になったりする。さらに、ここでBCPを問われたら、上記のセットをもう一つ遠隔地に用意するといったことになりかねない。さらに、ウイルス感染したりすると、全部飛んでしまうので、予備用にバックアップサーバを立てたりする。これで分かるように、1台のサーバの可用性を担保しただけで、これだけの構成が必要になる。上記の構成が最新として持つのは約半年。しかし企業が求めるのは3年～5年である。5年前のサーバと比較して最新のCPUはパフォーマンスは約9倍、消費電力は1/9といった性能になっている。これを5年で償却できるのか、という話になる。そういった意味でもクラウドを勧める。

Q: 設計データを共有する際に、ギガクラスのデータをネットワークを通じてだと遅くてやってられないが、その部分というのはホスティングはどう考えているのか？

A: 単にネットワークの帯域が足りないだけ。回線の足回りは基本的に強固である。

[参加の目的&仮想化の現状など]

・ホスティングには良い話を聞いていなかったの、あまりイメージを持っていなかったが、話を聞いて、1台のファイルサーバなどを立てるのであれば、ホスティングのメリットも感じている。

ただサーバ導入の際の学習の機会が奪われるのは個人的にはつまらない

・メンテ会社にサーバを任せている。リース切れになったらサーバを注文してOSの入れ替えなどで高額な費用がかかっている。サーバの移動にもお金がかかる。このあたりはクラウドにしていって解決していくのかなと考えている。

・社内インフラ、セキュリティ担当。クラウドはそろそろ導入していても良いのかなと考えている。

現時点ではWEBサーバのホスティングのみだったが、事業統合がありシステム統合の話が出ているが汎用機が残っている。

先方のシステムではホスティングも使っているようだ。価格面でこれから安くなっていくということで、期待している。

・社内IT管理者

人の問題を考えると、クラウドも考えている。2、3年前まではアウトソースは制限がかなりあったので、実運用には採用できなかったが、今日の話聞いて、進んでいるのだなと感じた。

・学校のシステム管理担当

非常にコンピュータに依存した学校である。サーバのホスティングは教育委員会レベルまで巻き込んで進めていけない。将来的には教育データベースみたいなものは作りたいと考えている。

・ある程度の規模以上の企業であれば、自社で運用してもある程度ペイできるだろうが、企業規模が小さくなると、自社でサーバを持つのは大変。BCPの面も考えると危なっかしい。低価格、高セキュリティなホスティングサービスは期待していた。

・IDC事業社営業

WEB系のお客が多い。開発スタッフは多いが運用スタッフは居ないケースが多い。そういったところでクラウドを提案すると非常に関心を持ってもらえる。

・販売会社の営業

県内で小規模の企業は、インフラが整っていないところが多いので、ホスティングを提案したい。

・システム提案を行なう立場

提案していくうえで、非常に有効な話が聞けた

・ホスティングはアウトソースしている。

会計システムは本国でホスティングしてしまっているが、料金が非常に高い。今日の話聞いて、ホスティングは非常に安いと感じた。

・社内サーバをアウトソースしてしまえば、自業務としては楽になる。

上層部は、物体そのものが自社になく、ID/パスワードだけしかないという状態に非常に抵抗を感じているようだ。

個人的には、ID/パスワードこんなに安価でセキュア環境が構築できるものは他にないと感じている。どうやって稟議を通せばよいかのアイデアが欲しい

・業務企画で運用を担当

事業の業績が良くないので、IT投資が凍結している状態である。そういった面も鑑みて、クラウドは検討していきたい。

・社内に足回りをもちたい。

社内からのアプリケーション要望が多岐にわたっており、ホスティングすると対応できない事象が出てくる。しかし、ビルの法定点検で24時間サーバを止めなければならないことがあり、上記の要素が解消されるのであれば、クラウドはどんどん使っていくべきと考える

・クラウドに対するイメージ、現状のホスティングというものがよく分かった。これから我々が開発していくソフトウェアは、今までのようにOSのことだけを考えるのではなく、概念的にでもクラウドのことを念頭に入れて開発しなければならないと感じた。

[ディスカッション]

●基本的に、アプリケーションをたくさん作って欲しいから、クラウド化を推進している。以前は一つのアプリケーションを一晩で作成しても、それ100万人に使ってもらおうとすると、膨大な管理工数がかかっていた。デベロッパにはどんどん面白いアプリケーションを作ってもらい、我々はそれを支援するサービスを提供していくということ。クラウドなら、ダメだったら止めるということも簡単にできる。何千万のサーバを購入して後戻りするとはできないから。

●以前、先輩にあたる方が、クラウド化を推進していたが、当時「どうして自分の仕事を無くしてしまうようなことをするのか」と疑問に思ったことがある。その時「停電したら出社するなどの泥臭い作業をやらないため」ということを言っていた。泥臭い作業に時間を割くぐらいなら、会社のためにもっとやるべきことがある。会社にとってどういったシステムが必要なのかということを常々考え、テストして、必要と思うシステムは社内にはFITさせて上に持っていく稟議を通すといったことが、自分たちの仕事である。そのためにクラウドは必要なのだという話をしていた。こういった観点から、ホスティングすることは価値があるし、自分たちの生き残る道はまだあると考えている。

[まとめ]

今後ホスティングも含めてクラウドの時代が来ると考えられるが、コスト削減が叫ばれる昨今、こういったシステムはサーバ1台からでもメリットが出ることが分かったので、今後とも有効な活用方法について研究していきたい